

# 第 8 章

目 標・効 果



U S U K I   C I T Y

# 1 目標・効果の考え方

本計画の基本理念を目指し、実現化に向けて誘導施策を実施していくうえで、各種施策の進捗状況や効果を確認するため4つの分野で目標・効果を設定します。

本計画は概ね 20 年後の都市の姿を展望しながら、長い期間をかけて施策を展開していくものです。そのため、5 年ごとに計画に記載している目標・効果等の分析・評価を行い、計画の進捗状況や妥当性を精査・検討していきながら、必要に応じて見直しを行います。

## ◇ 4つの分野における目標・効果 ◇



## 2 分野別の目標

### (1) 防災の目標

臼杵市街地では、津波・洪水・高潮等による浸水が広範囲に想定されているほか、南海トラフ巨大地震等の発生に伴う人的被害や建物被害なども想定されています。

また、本計画で実施した防災ワークショップ(市民懇談会)では、災害が発生した場合は、命を守ることを最優先とした避難に関する課題や取組等が重要視されています。

そのため、災害リスクへの対応や市民ニーズを踏まえ、防災の目標を「自主防災組織の自主的な活動件数の増加」、「防災士の数の増加」、「避難行動要支援者の個別避難計画の策定率」とし、組織力の強化及び防災に関する知識向上を目指します。

目標指標	実績	令和12年 (中間目標)	令和22年 (最終目標)
自主防災組織の 自主的な活動件数	71件 (平成30年)	80件	100件
防災士の数	588人 (平成30年)	738人	888人
避難行動要支援者の 個別避難計画	52% (令和4年)	100%	100%



**(2) 都市機能の目標**

4つの都市機能誘導区域において、それぞれの地域の特性に応じた誘導施設の維持・充実により、各地域の拠点性を高めることが重要です。

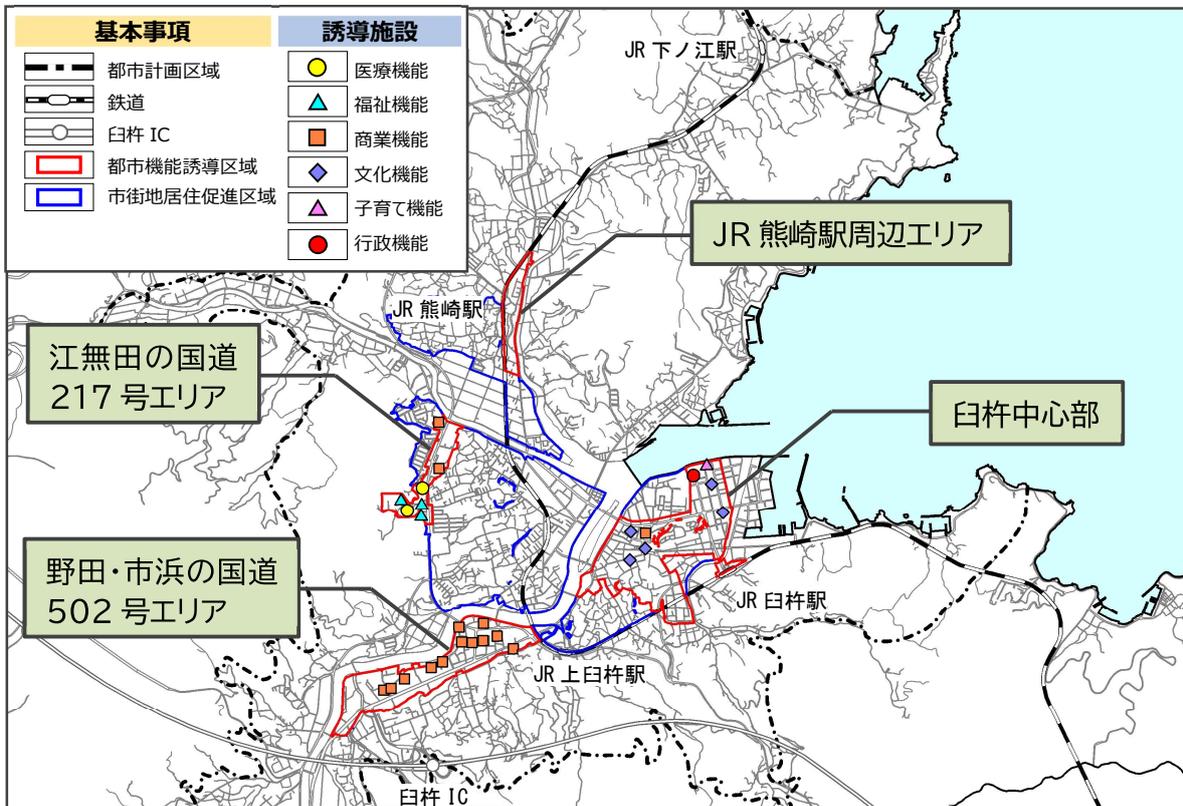
特に臼杵中心部は、歴史特性を活かしたまちづくりとして交流促進と賑わいづくりに向けた都市再生整備計画による事業を進めるとともに、景観計画では景観形成重点地区に指定し、臼杵らしい景観の保全・形成に努めるなど、重点的な取組を進めてきました。一方で、本計画で実施した市民アンケートでは、臼杵中心部において飲食店やスーパー等の増加が望まれており、中心部における新たな魅力の創出や滞在・回遊を促進する仕組みづくりに努めることが重要です。

そのため、臼杵中心部の歴史的な町並みを更に活かすとともに、市民ニーズへの対応を図ることから、都市機能の目標を「主要観光地の満足度」と「誘導施設の立地数の維持・増加」とし、臼杵市街地の活性化や回遊性の向上、日常生活の利便性向上を目指します。

目標指標	実績	令和12年 (中間目標)	令和22年 (最終目標)
主要観光地の満足度 (観光動態調査より)	6.81点/10点 (令和4年)	7.00/10点	7.50/10点
誘導施設の立地数	28施設 (令和5年)	31施設	34施設

※主要観光地は、入込客数を集計しているもののみを対象

◇ 既存の誘導施設の分布 ◇



資料:臼杵市 市作成データ

### (3) 居住地の目標

毎年200人程度の移住人口が確保できているものの、近年における人口増減数は毎年500～600人の減少で推移しており、市外への転出抑制に努めながら人口密度の維持を図ることが重要です。

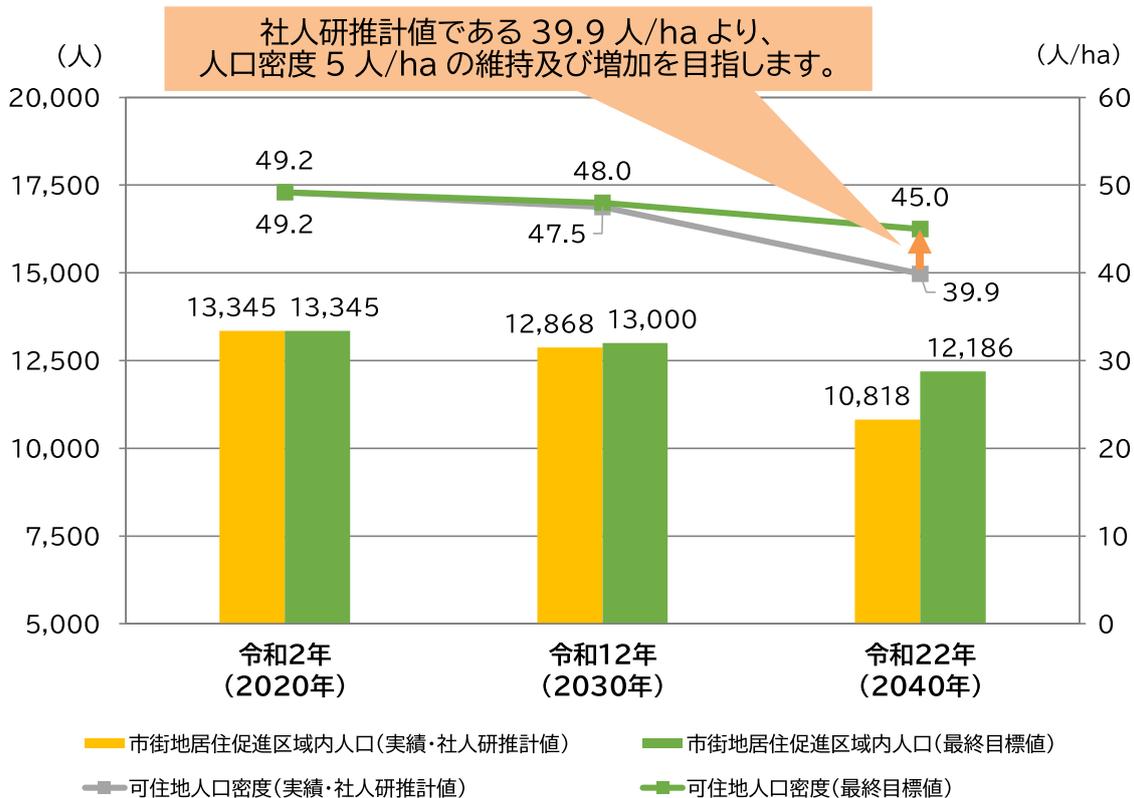
そのため、居住地に関する目標を「市街地居住促進区域の人口密度の維持」(第5章 4-(3)を参照)とし、長期的な視点における市街地内の人口の維持・誘導を図りながら、効率的かつ効果的な都市基盤整備等による居住環境の改善を進めるなど、居心地の良さを実感できるまちづくりを目指します。

目標指標	実績	令和12年 (中間目標)	令和22年 (最終目標)
市街地居住促進区域の 人口密度	48.9 人/ha (令和2年)	48.0 人/ha	45.0 人/ha

※中間目標である48.0人/haを達成するためには、約130人の市街地居住促進区域内の人口維持や市街地居住促進区域外からの人口誘導が必要

※最終目標である45.0人/haを達成するためには、約1,370人の市街地居住促進区域内の人口維持や市街地居住促進区域外からの人口誘導が必要

◇ 市街地居住促進区域内の人口密度の推移 ◇



資料:臼杵市 市作成データ

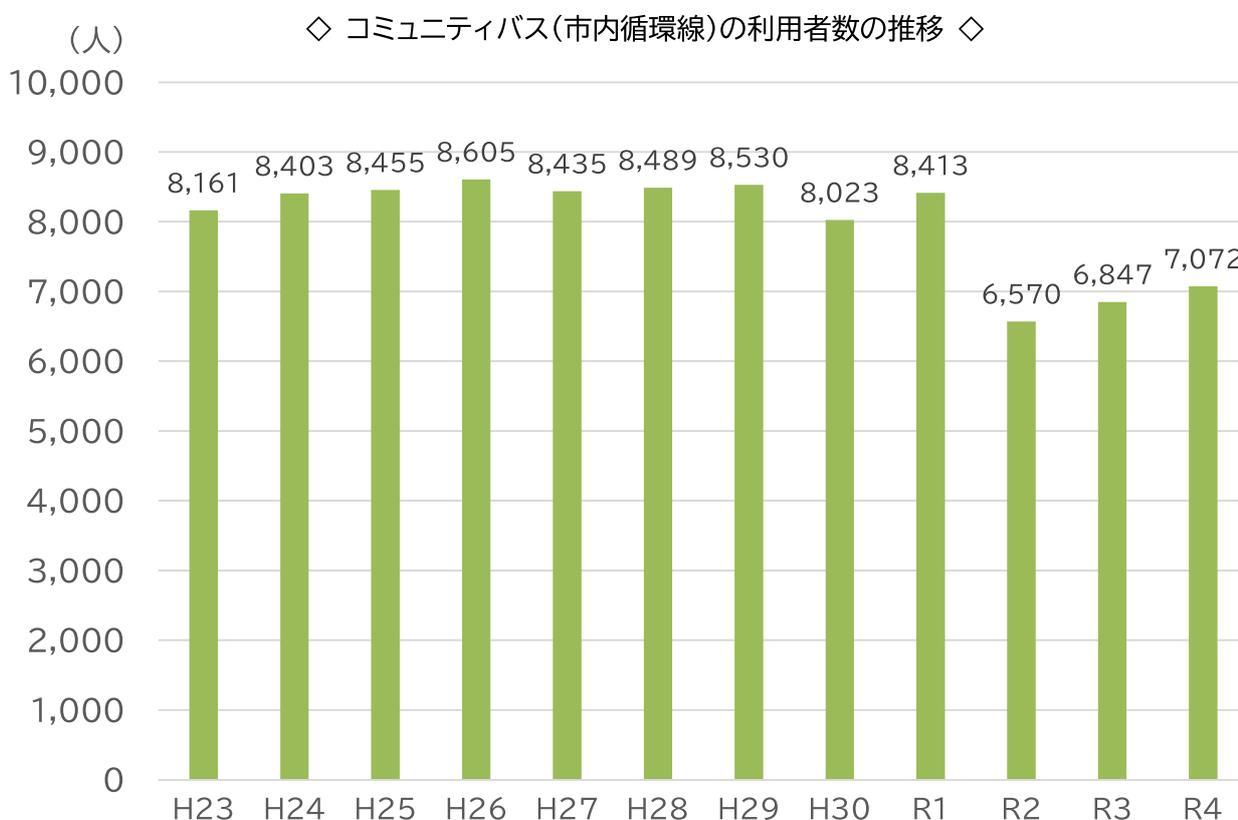
**(4) ネットワークの目標**

各地域から臼杵市街地や野津市街地への公共交通によるアクセス手段の維持・確保や多様な交通手段を活かした移動サービスの確保等が必要となっています。

本計画と両輪を成す「臼杵市地域公共交通計画」においては、まちづくりインフラとしての公共交通の持続的運営や公共交通の利便性向上による利用者数の増加等を期待し、評価指標として「公共交通の利用者数」や「収支率」等を目標として掲げています。

本計画は、地域公共交通計画と目標の整合を図りながら、持続可能な地域公共交通を実現することとし、ネットワークに関する目標を「都市機能誘導区域を結ぶコミュニティバス(市内循環線)の利用者数の増加」、「JR臼杵駅の利用者数の増加」とし、更なる公共交通の利便性向上や利用促進を目指します。

目標指標	実績	令和12年 (中間目標)	令和22年 (最終目標)
都市機能誘導区域を結ぶ コミュニティバス(市内循環 線)の利用者数	7,072 人/年 (令和4年)	7,500 人/年	8,500 人/年
JR 臼杵駅の利用者数	575 人/日 (令和4年)	675 人/日	775 人/日



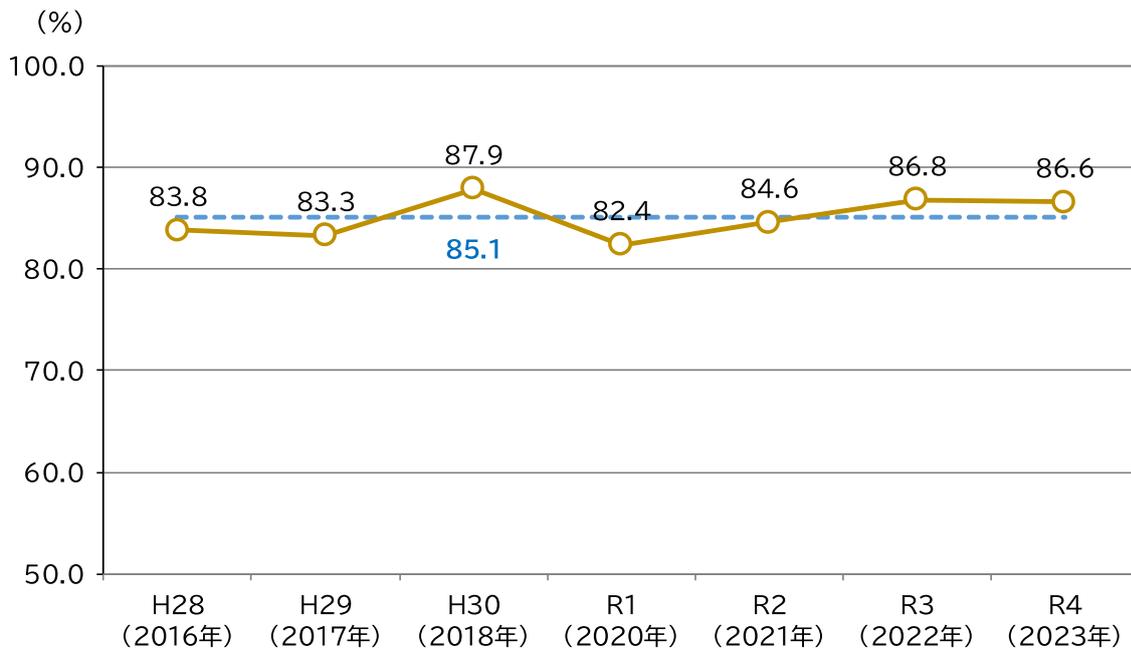
資料:臼杵市 市作成データ

### 3 目標の達成により得られる効果

4つの方針に基づく目標を達成することにより得られる効果は、本市で毎年度調査を実施している臼杵市よりよいまちづくりアンケートの結果である「臼杵市の住みやすさを実感している人の割合」とし、更なる割合の向上を目指します。

目標指標	実績	令和5年～令和12年 (中間目標)	令和13年～令和22年 (最終目標)
臼杵市の住みやすさを実感している人の割合	平均 85.1% (H28～R4)	平均 86.5%	平均 88.0%

◇ 臼杵市の住みやすさを実感している人の割合 ◇



※臼杵市よりよいまちづくりアンケートは、「臼杵市総合計画」に掲げた施策や事業などについての評価や事業計画策定の資料として活用するため、毎年度 20 歳以上の市民 2,000 人を対象として調査を実施しています。

資料: 臼杵市 よりよいまちづくりアンケート